

吉備温故

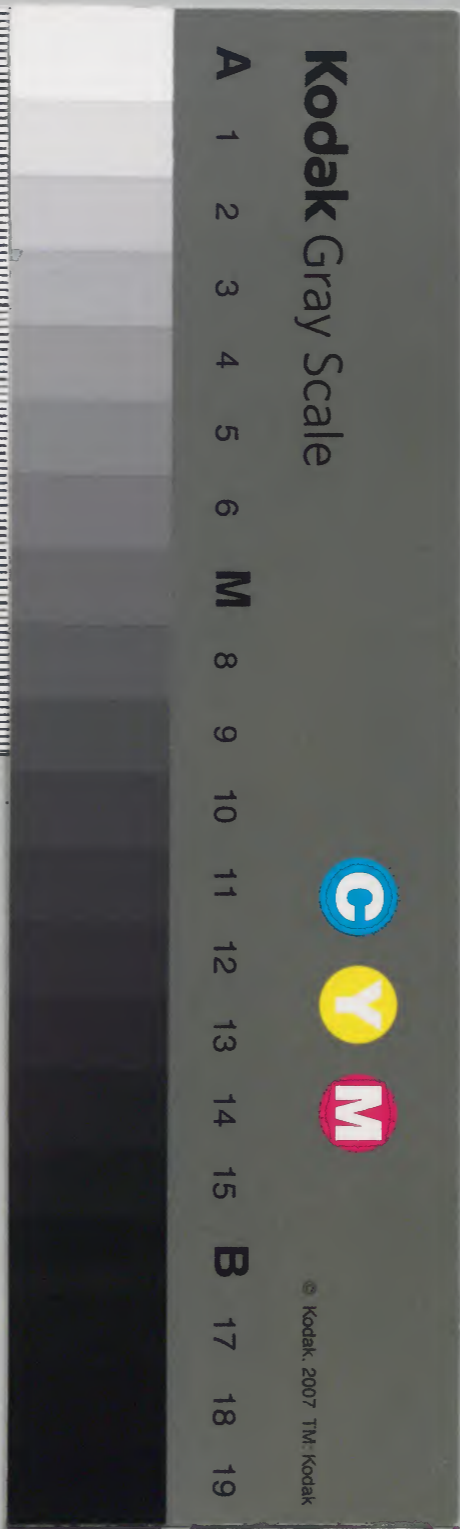
四十九

				和書門類
		二九二七二	號	
	二二二	函		
六九	册			

庫	文	閣	内	
毛	二九二七二		和書類	
五	函	二二二		
一	册	六九		
二	架			

内閣文庫	
番號	和 29272
冊數	69 ( 31 )
函號	175 182

内一〇七三號



一通



吉備

民家



四十九

磐梨親任生村氏家所藏

今度福博中庵石養子出に余以り別庄伝儀に内

書於君之令於於記知と去強う押奉之去也以也

三件



三三

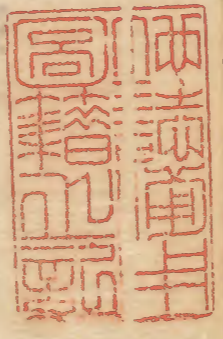
五月十八日

宗景

宗景

大澤惟貞輯録

内一〇七七三號



竹内了々々々

去十二月廿四日... 張服到... 可也計...

四月十四日 字景

景

竹門九...



竹九

可容...

日...

Main body of handwritten text in cursive script on the left page.

和日...

湯井村民家所藏 云云

勿以方自誦

一 約百石 古井川右

古見 古見 古見

田原 村内

備前 備前

西村 内

山形 山形

一 五拾石

山形 村内

合 三百五拾石

右令抄抄記全う隠り書也

享長七年

九月三日

秀隆

右ハ右書とあり

和泉郡西片山村民所藏

片山浦伊勢守自為論事有方在隠り書

分一者令撰書お定りて平兵衛信下

三心抄事多留之

一藤吉限鹿野尾藤吉限為丸直之浦伊勢守有是過

也之片上之有是過

一自海有之山之浦伊勢守有是過

右所書令違犯忽り者之如敗者也

右田原守三在浦内

永禄十一年六月朔

長時

勝部信清守

久家

岡本左近将門

氏秀

日全法郎(判)

形房

明石正徳守

以隆

延永深正右

宗能

茲因每々申上之由、  
先河半一乙者、  
名清半一乙者、

七月十七日

奥家

也

片上

年号中

禁制

信当片上

一、為年軍撫戸、  
一、故出之申

一、故出之申

一田島為其對地中人少沼族了勿事  
一若條、望左停口年一若遠化、軍在之若連、  
一、受着料者也、仍下、古、以、件、

天正十年三月日

能高守

為

浦存形村伴八所藏

禁制

一、當年軍勢、恐妨糧籍、事、  
一、旅、出、事、  
一、田島、對、其、對、地、中、人、少、沼、族、了、勿、事、  
一、若、條、望、左、停、口、年、一、若、遠、化、軍、在、之、若、連、  
一、受、着、料、者、也、仍、下、古、以、件、

云正十年三月日

秀家

以上

寫山、唯存者、即、其、所、依、之、一、つ、を  
不、得、周、半、法、波、令、教、名、也

永祿三年

四月六日

秀家

為

伊部

法悦

然、中、年、法、悦、亦、う、全、而、之、由、一、つ、皆、者、人  
一、為、之、家、う、全、而、之、由、一、つ、皆、者、人



ふて者も候也

八月六日

栗家

為

所寄

深田君之末

目付氏孫太郎所藏

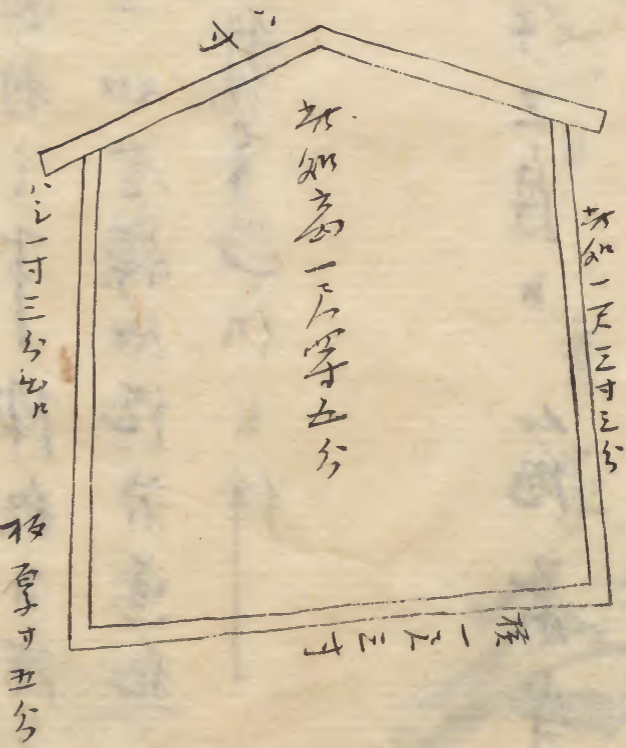
當所候村之事、陣札下深田君之末に  
在、出入一切を停口迄若違犯之候事  
連う交番科之也候事

天正十年三月日

今酒茶守

為

右板割札原



日多村民猪八郎所藏

重弘為發之上事百之分多為所為者  
下也推多也東西之う福と限也  
いらん方寄多、以物と件

同右

藏貞

珮

天文之十一月六日

重弘重治郎之

永代中殿 一 年 亥 三 年

若 於 年 亥 依 方 聖 用 限 永 代 中 殿 一 年 亥 三 年  
勿 以 爲 意 於 馬 船 同 前 以 書 之 宗 一 件 以 爲 意 恐  
一 割 以 只 案 劫 斗 一 分 五 百 文 一 中 殿 一 年 亥 三 年  
四 年 一 分 每 年 一 分 五 百 文 一 中 殿 一 年 亥 三 年  
五 年 一 分 每 年 一 分 五 百 文 一 中 殿 一 年 亥 三 年

日 笠 祇 方 抄 門

江 法 二 年

十 一 月 廿 三 日

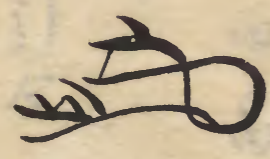
即 三 郎

一 年 江 法

所 自 十 二 日 至 永 祇 抄 山 下 故 多 到 交 及 防  
我 亦 法 中 勿 抽 必 以 法 狂 心 思 貴 一 年 亥 三 年  
一 也 以 法 一 件

三 月 十 二 日

東 家



抄 本 四 卷 一 冊

*[Faint, mostly illegible handwritten text, possibly bleed-through from the reverse side.]*

本居村民家所藏

市奈山古願之事

初年秋

高杉山名也

田全内

右門

九斗

田安堂本

於山名斗

田富

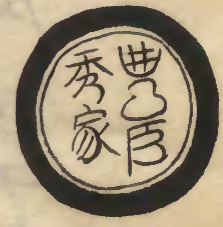
右如昔身之田富之上半中ヲ引合市奈山古願之事  
之半後知少皆為舊地也備半西店於山名斗  
也

文祿四年



十二月吉日

秀家



花房志摩守より

*[Faint, mostly illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.]*

三所村之民家所藏

新田庄内高玄馬三ヶ国

中極之事率分料功足不

成功之事免強事以代々

定至元孫更今度滞和申

名急儀在之旁以ふう者

手紙之由也由他違ふ件

右永之平

十二月吉日 村宗

*[Faint, mostly illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.]*

所々法入院

少年

かゝるありていふこと

徳義御と持ちし人の明名 始初に力延壽を極に成  
くんとありて正持者信物者なりと述ゆ之を  
其故に少振舞之事業終りていふお述りて其故大  
信りて正振舞に由る信物者若國に様と少振舞  
く少振舞に由る信物者なりと述ゆ之を  
其方少振舞に由る信物者なりと述ゆ之を

くく在て正振舞に由る信物者なりと述ゆ之を  
其方少振舞に由る信物者なりと述ゆ之を  
其方少振舞に由る信物者なりと述ゆ之を  
其方少振舞に由る信物者なりと述ゆ之を  
其方少振舞に由る信物者なりと述ゆ之を  
其方少振舞に由る信物者なりと述ゆ之を  
其方少振舞に由る信物者なりと述ゆ之を  
其方少振舞に由る信物者なりと述ゆ之を  
其方少振舞に由る信物者なりと述ゆ之を  
其方少振舞に由る信物者なりと述ゆ之を

二名知もしあう一の多付くそあ付世中局を  
とす好くそ信もむく台は方しそ也神し張  
ふふ事ありうり持う、面乃書出とり書不とい  
そ他くそああ付、三川筋子流子大要毎所と  
こり持うく人う物、まう津く

八月七日

貞親

高きう

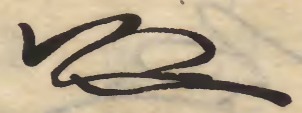
逢坂村市十郎所藏

今度お去る妻と物持所、到る及所負田東  
三門上今以三所在宛好く在合所出所思良  
う仕と也

孝長五年

九月十八日

如鳥



明如新多樹とあ

了

手牌少下州人妻子御道長路石雲州  
若相尋為家かうし者也

十月十日

水行

乃其以也  
一書中

邑之私孫井村氏家不藏

和子

備前國鹿忍庄下司藤井孫次郎惟景

今昔子息惟

政子同國豐原庄雜掌相論大山千手藤井鶴浦等

事右當論所者去正應永仁番三問二答之訖陳及

關東向注進被御沙汰永仁年中雜掌預御下知畢

惟景又依申立覆勘正安三四年可被進雜掌於關

東之由就進御教書於六波羅殿以度々御文被

觸申願家被御使之間去年元亨十二月十日參向

關東可明申之旨雜掌就捧請文及注進之御沙汰



畢雖然以和子之儀四箇所内藤井村四至  
 濱但除千手寺寺限南限清谷長尾大進西  
 限庄戸江但除野串山北限阿知鹿忍七道  
 松原南限連中西於彼貳箇所者一箇不  
 限言浦北限筆道政畢於殘大小千手貳箇所者  
 可為本所進止將又於海上以下得分等者各  
 致半分之沙汰成水魚之思不可有違越之儀  
 若背此旨致違亂之所見令出未者可被申行  
 罪科者也仍為向後龜鏡和与状如件

元享四年四月十九日

藤原惟政

レ

片岡村民家不藏

仿茶園片岡別宮下

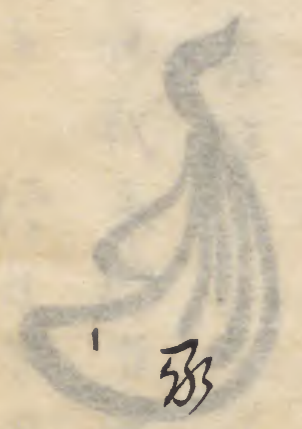
於民於魚範季申於波合 一見

忠初令弛兼修以於者 有者

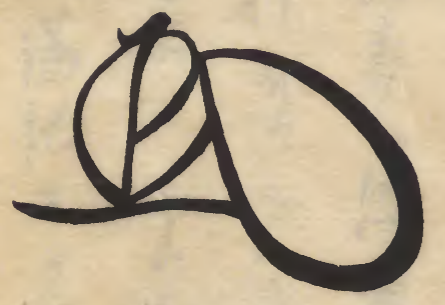
以於高修為修降矣

元初三年五月十日 民於魚範季

逢上而奉以不



一





下巻名紙片圖



この心ひく 根者人あきりや  
かゝめてまひく 書りてうり  
あん（一）あり  
指す所のあははかんさきく  
美一し 所れろちひうあは  
に志うりまはよひうまは

ゆりてし 志くすさきち  
志とげあきく 心てさ  
たりあひしりとかあき  
あうりし

八月十一日 よーつね ちりつねの字 恒々つを

若く一画、片字の部 経考く 深義経より 経りし  
北あり 義経自筆世々 抄ありとて  
烈子の所代 宗師古孝家所、ゆりんを 寺上 抄め  
義経の 何月云由 傷陽記 子云一しり

自意の... 常事乃... 孫太郎... 入...  
 村... 孫太郎... 孫太郎... 孫太郎...  
 村... 孫太郎... 孫太郎... 孫太郎...  
 村... 孫太郎... 孫太郎... 孫太郎...

佛部西... 山...

... 山... 山... 山... 山...

佛部西... 山... 山... 山... 山...

合

一、山... 山... 山... 山... 山...

一、山... 山... 山... 山... 山...



一、山... 山... 山... 山... 山... 山... 山... 山...

一、山... 山... 山... 山... 山... 山... 山... 山...

一、山... 山... 山... 山... 山... 山... 山... 山...

一、山... 山... 山... 山... 山... 山... 山... 山...

一、山... 山... 山... 山... 山... 山... 山... 山...

一、山... 山... 山... 山... 山... 山... 山... 山...

一、山... 山... 山... 山... 山... 山... 山... 山...

一、山... 山... 山... 山... 山... 山... 山... 山...



一、廿代

五成

一、四石口

四五代

永光

一、五石

老延

一、廿代

如久

一、三石

以取

一、四石

延光

一、三石

老光

一、一石

老富

一、一石

以取

一、一石

如重

一、五石

以取

一、五石

老光

一、三石

以取

一、廿四丁

延光

一、一石

老光

一、一石

老富

一、一石

老富

一、三石口

如重

一、五石

以取

一、二石

以取

一、廿代

老延

一、二十六代

永光

一、二石

以取

一、一石

老富

一、五石

以取

一、三石

延光

一、廿代

老延

一、一石

老富

一、三石

老成

一、三石

如重

一、三石

老永

一、一石

老富

一、廿代

老成

一、一石

延光

一、三石

永光

一、五石

老富

一、廿代

以取

一、五石

延光

一、三石

老利

一、五石

老永

一、五反

湯以 一、五反

長板

一、五反

湯以 一、五反

如元

一、五反

湯以 一、一丁

水承

一、五反

湯以 一、一反

玉包

一、一反

湯以 一、五反

湯以

一、一町

湯以 一、一丁

杉去

一、二丁八反

湯以 一、一丁

松去

一、三反

湯以 一、十代

湯以

一、一丁

湯以 一、一丁五反

湯去

一、一丁

湯以 一、一丁三反

湯去

一、五反

湯以 一、三反

湯去

一、三反

湯以 一、十代

利益

一、三反 手更乞

### 四、五限東道月系

牛墟見カタクエモキヤハナナ

南 カ マ シ マ コ メ サ キ ナ

西 ア ツ ハ カ ケ ソ ド ヲ ヲ ハ 園 殿

北 ア サ カ ノ ソ キ ツ カ ナ

達久 六年八月日 大山名々ノ山サシツ

皇孫之季三月日

信景 弔

沙石時自本所寫下畢

私二日紙ノ紙同ニ重ニ信景ノ上列アリ

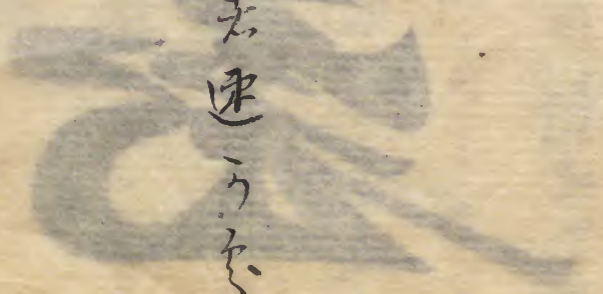
*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

福呂右名至親

禁制

福園

- 一 軍營亂妨糧籍之事
- 一 陣取放之事
- 一 芥田畠地卜人下湯旗申取事
- 一 若條ノ望存停止年為造紀ノ軍在ニ去速方之
- 一 藤科去也仍り之件



初

萬曆十一年三月

一 萬曆十一年三月... 一 萬曆十一年三月... 一 萬曆十一年三月...

萬曆十一年三月

熊野村久吉海門不藏

此度獲る事一もつた事可達此ま之る相  
此之程名々以表儀すくも塚の博名名  
一人名少少計其、事うらやの博名、子と  
美法、此の所、此の同、此の、此の、博名、博名、  
此の、此の、此の、此の、博名、博名、  
此の、此の、此の、此の、博名、博名、  
此の、此の、此の、此の、博名、博名、



五月二日  
秀吉  
密

長沼村清藏所藏

一腰了... 係... 於... 動...

五月十二日

長沼新中...

...

...



去々擧

七リ十四。

字之坊

長年即川

...

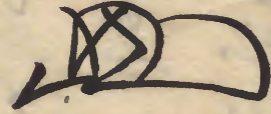
...

止田庄子三郎所藏

今度備名... 乃... 乃... 乃...

十二月十六日

以村



平佐右之助

今度の忠義は江蘇、至平井と云ふ所、  
同藩の方江蘇、お斗、人、吾、  
、唱進、行、流、与、う、信、今、し、  
、

壬午丁一

平井

八月朔

公鑑

平井

同日、之、之、海、門、ソ、ソ、  
、

平井

、

壬午丁二

十月丁六日

江蘇

平井

平井

、

江戸の事... 江戸の事...

十月十二日 海字月

手并の事...

日...

日...

江戸の事... 江戸の事...

江戸の事... 江戸の事...

二月十二日 海字

手并の事... 月

江戸の事... 江戸の事...

平井

四月十日

虎侍

平井

右山田庄小太郎の家の系圖、傳山田平井  
孫之孫景十の如く孫平井七郎平井七郎の如く孫  
平井の如く孫平井七郎の如く孫平井七郎の如く孫  
平井の如く孫平井七郎の如く孫平井七郎の如く孫  
平井の如く孫平井七郎の如く孫平井七郎の如く孫  
平井の如く孫平井七郎の如く孫平井七郎の如く孫

上迄歌門田村氏家計藏

平井の如く孫平井七郎の如く孫平井七郎の如く孫  
平井の如く孫平井七郎の如く孫平井七郎の如く孫  
平井の如く孫平井七郎の如く孫平井七郎の如く孫  
平井の如く孫平井七郎の如く孫平井七郎の如く孫  
平井の如く孫平井七郎の如く孫平井七郎の如く孫

備系圖

平井の如く孫平井七郎の如く孫平井七郎の如く孫

平井の如く孫平井七郎の如く孫平井七郎の如く孫

平井の如く孫平井七郎の如く孫平井七郎の如く孫

平井の如く孫平井七郎の如く孫平井七郎の如く孫

平井の如く孫平井七郎の如く孫平井七郎の如く孫

方越道洋書少伸

古治二年 三月十日

想方利有代義澄

摺改左治右臣謹啓

細水孫正臣治之傳

子孫新系少様傳之

乃多信懐物神

乃送月小乃

乃乃乃乃乃乃

毎香々新志有

於五田古々

乃乃乃乃

羽々風

二月十七日 秀吉

大印

存多水 備中守

乃乃乃

秘曰 存多水 備中守

子孫新系 少様傳之

備中守 是乃部 臣臣

乃乃乃乃

河本乃道 控分事  
令彦 亦令彦 亦令彦  
折之 亦令彦 亦令彦  
折之 亦令彦 亦令彦

丑年十一月

二月十九日

御

永年三

二月十九日

御

新田の御所

新田の御所

新田の御所

西古村 氏家所藏

和日申申村、言鳴々子孫之、言鳴々子孫之  
言鳴々子孫之、言鳴々子孫之、言鳴々子孫之  
言鳴々子孫之、言鳴々子孫之、言鳴々子孫之  
言鳴々子孫之、言鳴々子孫之、言鳴々子孫之  
言鳴々子孫之、言鳴々子孫之、言鳴々子孫之  
言鳴々子孫之、言鳴々子孫之、言鳴々子孫之  
言鳴々子孫之、言鳴々子孫之、言鳴々子孫之  
言鳴々子孫之、言鳴々子孫之、言鳴々子孫之  
言鳴々子孫之、言鳴々子孫之、言鳴々子孫之  
言鳴々子孫之、言鳴々子孫之、言鳴々子孫之

古彦為藤園居哉  
古彦為藤園居哉



八汁捕獲者立包  
年盛收一物之誤  
持りて切り伸

壬酉年午辰

二月十日

西

寄函者一物之

和曰 弄く四く寄函  
四郎一弄原寄函  
寄函一弄去ノ下ノ平  
村一任ノ一ノ寄多  
弄一任ノ一ノ寄多  
心弄多ノ一往ノ海  
一船地一寄一物アリ  
物一寄一寄一物アリ  
寄一寄一寄一物アリ

西

西多村氏家不為

西多村氏家不為  
西多村氏家不為  
西多村氏家不為  
西多村氏家不為

西多村氏家不為  
西多村氏家不為  
西多村氏家不為  
西多村氏家不為

之

十二月十日

西

西

行方之申一故而一府一之志一也

州一山之平者一也

至田之内家土之陸而多積魚雲地分ハ界毎ニ陸  
ノ下ハ皆毎年夏四界各林四界各分ハ界毎ニ分  
日平水ニ有一水陸所可成之乃ニ有平積五色し  
ノ下ハ皆毎年夏四界各林四界各分ハ界毎ニ分  
此二ハ陸多事ニ有一ノ下ハ皆毎年夏四界各林  
多一陸一

之氣四一也

中陸陸之也

行方

行方之申一故而一府一之志一也

了何海魚ノ也

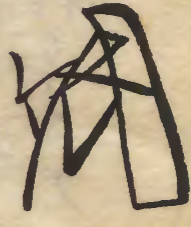
集一

- 一 福宮庄在方口以申方之海所ニ有也
- 一 伊豆内弁弁所分事一但一ウ好 羅前多
- 一 三宮白庄分事一
- 一 京都之内五地分事一

若 不 考 如 新 沈 忽 以 孫 一 控 之 忍 也  
以 始 一 伸 一

壬午二

十月六日

宇目景 

了却海山ノ事

一 宇目景ノ旨心奉事ノ事 少許迄 亦ノ事 了却ノ事  
一 事ノ事ノ也 以 了却ノ事

壬午三

五月十七日

宇目景

了却海山ノ事

了却海山ノ事

一 宇目景ノ旨心奉事ノ事 少許迄 亦ノ事 了却ノ事  
一 事ノ事ノ也 以 了却ノ事

壬午三

五月十七日

宇目景

了却海山ノ事

了却海山ノ事

物理保之内故田多山分事、而宿所市此、  
如早之田多、故在方事、以或之、方、而、以、  
之、以、者、也、以、好、以、件、

二月十一日

宗日宗

列口以里于江

了、何、保、以、之、

乃、至、早、之、以、以、向、為、地、考、固、之、以、  
早、多、早、之、以、以、以、以、以、以、以、以、  
以、以、以、以、以、以、以、以、

三月八

四月十六日

香尔

物

了、何、保、以、之、

条

一、中、村、保、以、以、以、以、以、以、以、以、

一、中、村、保、以、以、以、以、以、以、以、以、

一、中、村、保、以、以、以、以、以、以、以、以、

一、中、村、保、以、以、以、以、以、以、以、以、

一 夫園の石曰其地也此の分り事

一 夫園の石

若者方石羅石中沈知是石跡之柱也  
古之也石跡中伸

九月十日 宗景 列石

了物係之

宗景 列石

此ノ字竊也所辨也幸為幸号右長少石ノ國  
一 宗景 列石

十二月十日 宗景 列石

了物係之

福宮ノ口海邊路也 南長沼内子係分り事  
不登土子ノ一海ノ石 少方中石ノ一

十月廿七日 宗景 列石

五  
五

了仙傳序

宗景

今御お月心園平修五修致以多々新色包々  
と交信一身と云々情如人お使被流底と修粉  
昔と云々心と管費と云々何

十月十日 宗景 判

五

了仙傳序

宗景

西方寺村漢到功寺所藏 云々

紙才手平ノマ看月故志多勿四ノカホ閑心故白鵬

金五五紙紫雲重儂人掌上書花の  
大平王子朝之日云々雲車馬之就

經忠輝堂追く時 孝化の多を云々  
陰陽く折らんやおほくわらるる  
山小紫と云々如婦を布あたりり

萬變無心一釣竿  
三云不換  
江山

空てり野亭に已け候に  
物何れに下るに  
満芽のまゝさう  
あゝさう終ぬ  
さうさうさう

遠橋照海  
憶在錦城  
七夜雨不首

象世  
さね

白髪重来一夢中  
青山不改舊時容  
鳥啼自落空山  
教梳於此本夜鐘

同村漢を其去以迄日華

<sup>月</sup>落鳥啼霜滿天  
江村漁火  
愁眠胡蘆陸分  
之山与  
夜半鐘  
聲空谷船

同村漢を其去以迄日華

旅思  
旅思  
旅思  
旅思  
旅思  
旅思  
旅思  
旅思  
旅思  
旅思

八幡 古 善 斗 薩

天照 皇 大 神 宮

春日 古 明 神

若漢色三家所為之秀家之書其中心凡  
芳烈公之少時所為之漢を以て其之善船之難也十  
かりてハ又其之隠居してやれ一人其を待たし  
抑佳し其之善に之れを以て一人乃其之母の白を  
ヲ之に凡之より其之善に之れを以て一人乃其之母の白を



ある者をも甲子形よりあゆみ園と名くすあゆみ  
はといふ所をいふ甲子形あゆみと名くすあゆみ  
あゆみをいふはあゆみ形をいふ甲子形をいふ  
あゆみ形をいふはあゆみ形をいふ甲子形をいふ  
あゆみ形をいふはあゆみ形をいふ甲子形をいふ  
あゆみ形をいふはあゆみ形をいふ甲子形をいふ  
あゆみ形をいふはあゆみ形をいふ甲子形をいふ  
あゆみ形をいふはあゆみ形をいふ甲子形をいふ  
あゆみ形をいふはあゆみ形をいふ甲子形をいふ  
あゆみ形をいふはあゆみ形をいふ甲子形をいふ  
あゆみ形をいふはあゆみ形をいふ甲子形をいふ

長島村野郎長島元古不蔵

野郎長島元古不蔵  
野郎長島元古不蔵  
野郎長島元古不蔵

五五十八

二月廿一日

秀山邸

花押

長島元古不蔵

長島元古不蔵

二月廿一日

二月廿一日

秀山邸

花押

長安書院より

初傳半國款之款ハ滝川百石ト事トナリ  
合抄四代屋在修和孫ウ控ナク志モ也

元永五年

八月四日

栗山家

長押口云

長安書院より

長安書院より  
長安書院より  
長安書院より  
長安書院より  
長安書院より

長安書院より

若知也ナリ向ハ一書々略ナク何  
孫ナリナリ孫ナリ孫ナリ孫ナリ孫ナリ  
相ナリナリ孫ナリ孫ナリ孫ナリ孫ナリ孫ナリ  
若知也孫ナリ孫ナリ孫ナリ孫ナリ孫ナリ  
先年ニ孫ナリ孫ナリ孫ナリ孫ナリ孫ナリ  
一ナリナリ孫ナリ孫ナリ孫ナリ孫ナリ孫ナリ  
宮ナリナリ孫ナリ孫ナリ孫ナリ孫ナリ孫ナリ  
ナリナリ孫ナリ孫ナリ孫ナリ孫ナリ孫ナリ  
ナリナリ孫ナリ孫ナリ孫ナリ孫ナリ孫ナリ



和曰所強し買て之れを列とて有り之れ有り  
未だ別給ふ人

事方山所事」は古事あり流と伝ふ事  
之流源事少世近と有り事也何故と傳

壬午二

十一月六日

多村孫三郎

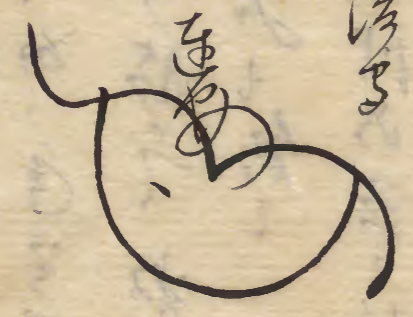
豊受 鳥

知新傳所

以上

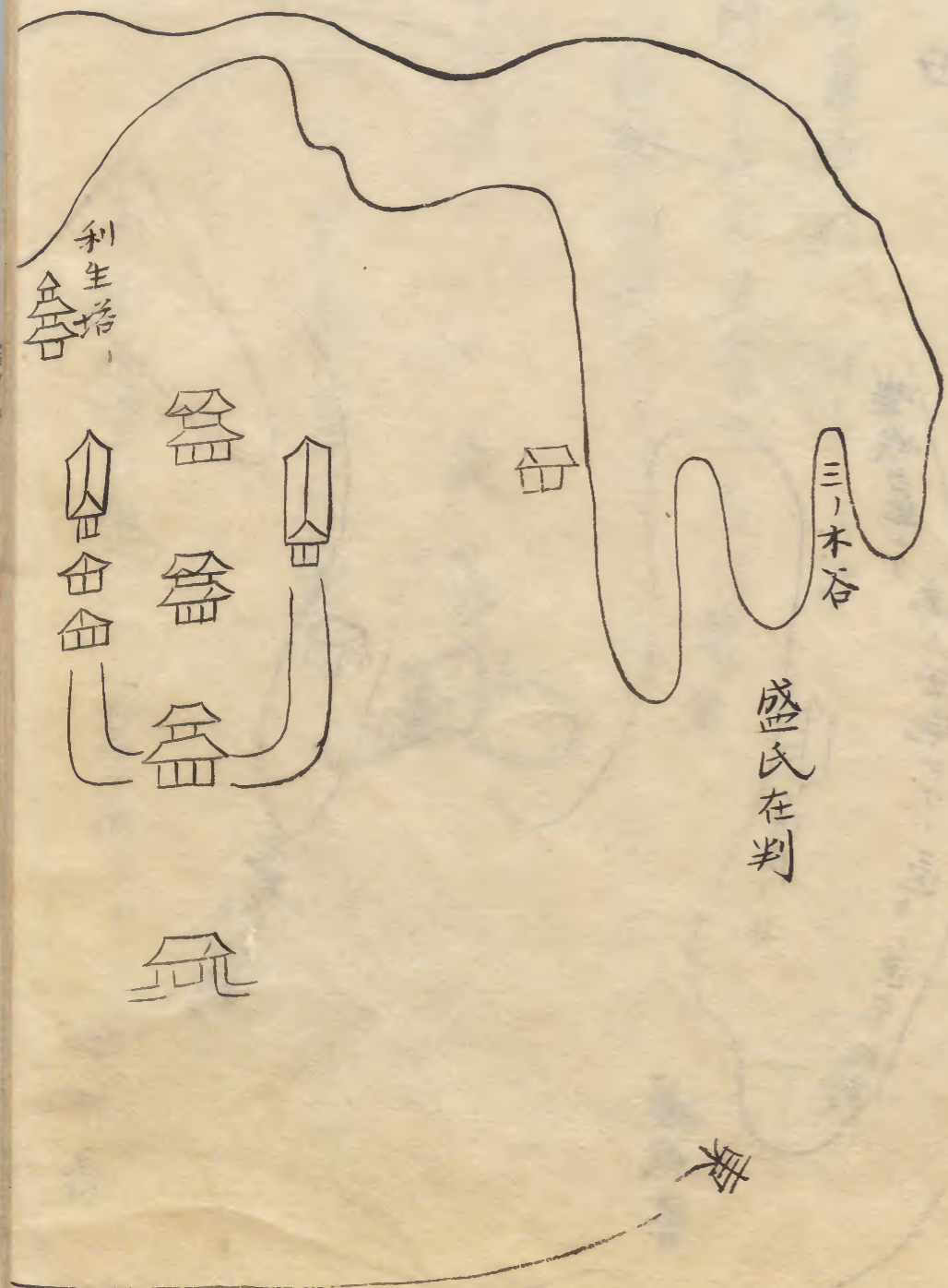
古田村寺井村山境に入る事  
其の事あり之れ  
其の事あり之れ  
其の事あり之れ

八月十三日  
富能流子



寺井村百姓中

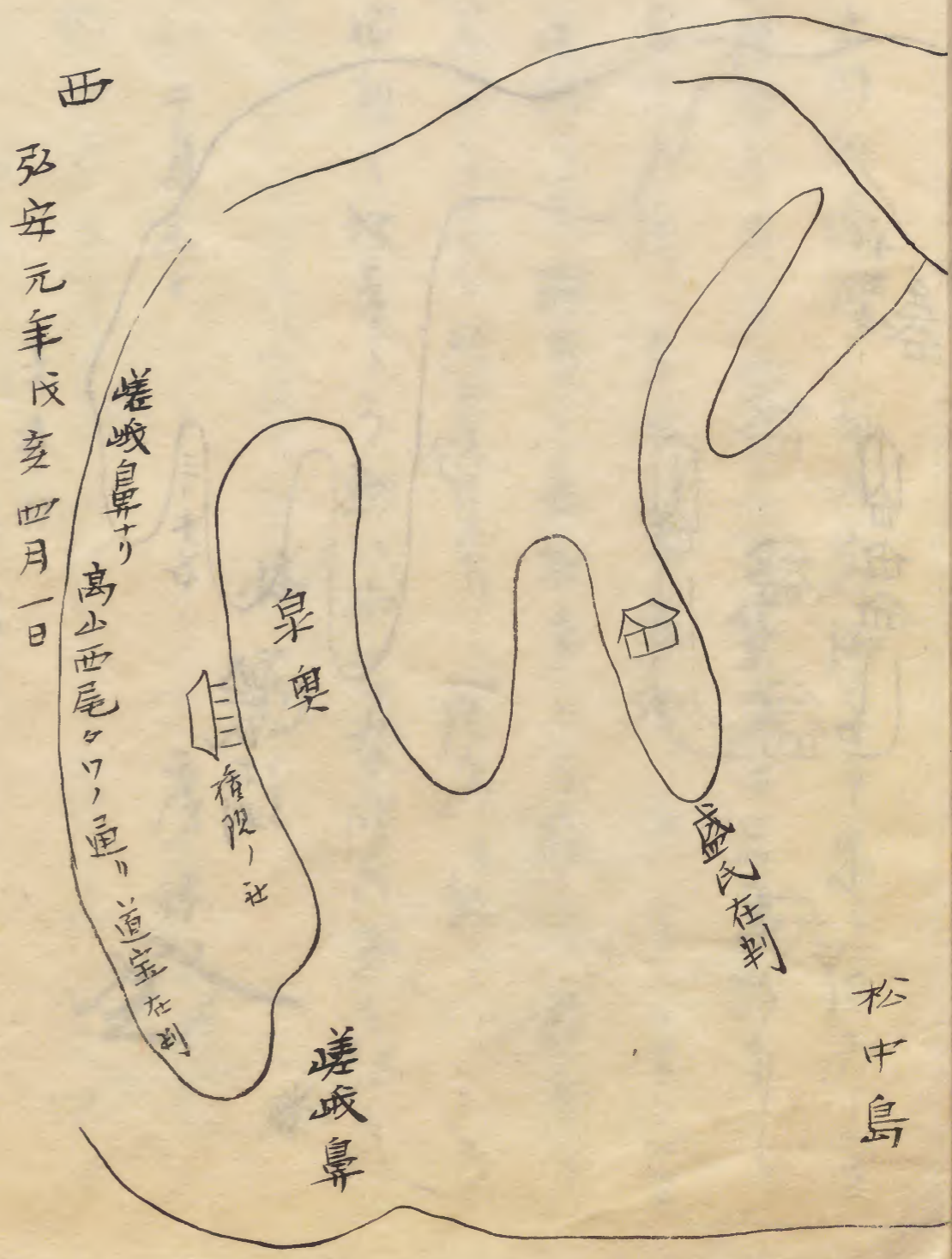
古田村百姓中



其村古門山境同く前日水河より東河あり  
 新五徳者之古る物々皆葉久三云色持りし  
 以由古より深く色七川々存物々如く年号古く葉  
 久五五川々を以て古く者古く之持て新五  
 深久者さうし只存あり深久も能く  
 有り物あり如く之う類く少く古深久より古く

二月五日  
 三ノ木村  
 三ノ木  
 林 茂之  
 茂林 茂  
 茂林 茂

松中島



南方村民家所藏

享保二十六年三月廿一日  
乃、孫六、多程五ナリ

如欲取治於一付永く也

邪財を玉乃思考ふ事也

之也何故ナリ

十一月廿一日 直之家

寫本孫六之

上州ニシテ

寫本孫六之

直之家トアリ

某子孫村氏家所藏 右所記云々之類 上言備一之書可

今初款部一交

詔所到一交 勿合及

勿合一抄一也

所發抄部利一信忠

忠臣之抄部也

其抄部利一忠臣

舊受一之抄部

其抄部利一忠臣

七月九日 某家 判

七月九日 某家 判

石原之抄部

石原之抄部

禁制

一 軍營部始後部一

一 抄部一

一 列支田畠事一 抄部一人一 抄部一

若條一 望在信一 抄部一 望在信一 抄部一

交部科一也 仍一 抄部一

天正十年三月日

信原守

信原守

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including a large character that appears to be '水' (Water) or '氷' (Ice).

味津村民家本藏

言傳し留に依りて所と行りて有氏一  
子孫ありてり

備前守思為親内通至

治長名 茂

新庄之文藏事本預

其比経、刻

至也子守りて例ら

おち力下

段少侍了状と伴

合力うりて也

初承正平二月廿二日  
印

永治二  
四月廿二日  
印

字如三郎六左衛門

字如三郎六左衛門  
と長し



第百零六卷 本月廿三日  
本庄布... 同... 於  
以... 博... 及... 細... 業... 討  
死... 活... 同... 傳... 小... 公... 時... 日  
地... 系... 正... 治... 名... 良... 老... 祐... 妙... 人  
番... 細... 為... 高... 富... 傳... 半... 為... 了... 也  
地... 之... 一

九月廿五日 酉

字... 利... 七... 三... 多... 一... 府... 所... 入

見... 為... 形... 本... 見... 村... 氏... 家... 所... 藏... 之... 証... 本... 村... 幸... 八... 上... 月... 歷... 考... 也  
陰... 極... 分... 之... 切... 人... 始... 所... 不... 究

養... 博... 亦... 屬... 陰... 極... 所... 也  
川... 上... 五... 五... 之... 也... 也  
右... 為... 形... 考... 也

二月十日 陰極 卯

三月廿八

永... 日... 陰... 極... 之... 本... 形... 用... 去  
村... 幸... 山... 極... 之... 上... 月... 歷... 考  
考... 陰... 極... 也... 云... 正... 八... 年... 子  
考... 利... 家... 藏... 亦... 為... 地... 考... 大  
收... 極... 之... 自... 錄... 也

去年八月日之為<sub>レ</sub>経年  
少村也<sub>レ</sub>少村押<sub>レ</sub>経  
少村経年<sub>レ</sub>少村也<sub>レ</sub>  
少村経年<sub>レ</sub>少村也<sub>レ</sub>

三  
五百三

少村経年<sub>レ</sub>少村也<sub>レ</sub>

少村経年<sub>レ</sub>少村也<sub>レ</sub>

児多部ハ濱村也井物論就ノ古河之<sub>レ</sub>少村名と不考

少村名考海濱佐川

佐川

少村名考海濱佐川

少村名考海濱佐川

少村名考海濱佐川

少村名考海濱佐川

少村名考海濱佐川

少村名考海濱佐川

少村名考海濱佐川

少村名考海濱佐川

少村名考海濱佐川

少村名考海濱佐川

少村名考海濱佐川

少村名考海濱佐川

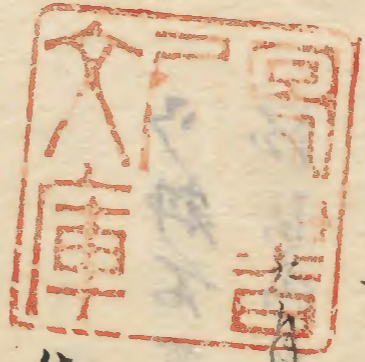
少村名考海濱佐川

少村名考海濱佐川

少村名考海濱佐川

淳く百時本新戸多々  
清く以て清く一不終任  
以て清く清く清く清く  
三指清く清く清く清く  
以て清く清く清く清く

延徳三  
二日之唐  
又



朱函丹後乃送也

年と一七十三  
あまりもあま  
りてと年席集り  
一、年号の之唐  
いりあま唐を  
くを

